

A I 通信

Vol. 50, September, 2020

2019年をふりかえって・・・ A look-back on last year



Esta rico. ♪

2019年9月

「ルイサのペルー料理教室」
パエリアを作りました。

〈英会話教室番外編〉

フェルナンド先生&ヘルガ先生、
クリスチャン先生、の
タコスづくり教室。
説明はすべて英語です♪



**2019 Fado no Japão
Atami**

約160名の観客が知性と哀愁を感じさせる歌声を持つ
若手男性ファディスタ
ミゲル・カモンイスの歌に
聴き入りました。

2019
インターナショナル・
イヤーエンド・パーティ



ご挨拶

熱海国際交流協会会長
松本義廣

熱海国際交流協会会員の皆様におかれましては、夏の酷暑に加え猛烈な残暑が続きましたがお変わりなく御健勝でいらっしゃる事と存じ上げます。

かねてより皆様方には協会の運営に対し一方ならぬご尽力を頂戴致しておりますが、本年度はコロナ禍の為に一堂に会する事も叶わず、感謝の気持ちを直接にお伝えする事も出来ず心苦しく思っております・・・。

誠にこの災難には人間の創り上げた文明社会の脆弱さを思い知らされた一面も有りますが、その様な環境下でありましても我が協会のスタッフは知恵を絞り、開催の御要望が強い外国語講座を、現下の環境下で安全に実施する手法を模索し研究するなど前向きに取り組んで頂いております。

会長の私としては、当協会の実施する行事や活動が原因で新型コロナウイルスの感染拡大を招く事が無いようにとの考えが大前提ですが、その上で安全を担保し有意義な活動が展開できれば誠に嬉しい限りで御座いますので、協会員の皆様に於かれましてもご意見やアイデアが御座いましたら事務局にお寄せ頂ければ幸いと存じます。

メディアから得る情報のみで医学的知識はない私ですが、残念ながらこのウイルスとの戦いは長期戦となるように思われます、そう致しますと私達一人一人が覚悟を決め腰を据えて守りを固めなければなりません。

どうぞ会員の皆様に於かれては御自愛頂き、御家族・御友人と努めて明るくお暮し下さるようお願い申し上げますとご挨拶とさせていただきます。

拝

語学教室

幅広い年代と生活スタイルの方々に、外国語を楽しく学んでいただけるような講座をご用意しました。日時・受講料など、詳細については、事務局までお気軽にお尋ねください。

英会話 (オンライン)

大山ヘルガ先生 (市ALTドイツ出身) 道案内からビジネス英会話まで楽しく学べる先生です。

トゥルーリン・フェルナンド 先生
(市ALTアメリカ出身) 初心者に人気の先生です。英語の発音やスピード、リズム感を身につけましょう☆

英会話 (オンライン)

今井真由美先生 (英語講師)

「気づいたら英語が話せた！」が今井先生のモットー。1つのミニスピーチを完成させてみましょう。学生さん、お友達同士の参加も可能。

韓国語教室 (オンライン講座)

高敬淑先生 (釜山出身)

高先生の丁寧なご指導とアットホームな雰囲気
が人気のクラスです。レベルは、ハングル語が2
読める方対象です。

～日本ポルトガル友好～ カスカイスに根を張れ、

花咲け、絆を結べ！

ポルトガル日本友好協会（AAPJ）副会長 加瀬祐子（在ポルトガル）

私とポルトガルとの出会いは、ポルトガル留学に遡ります。その後こちらで結婚してカスカイスに根を下ろしてから 20 年以上となります。

さて、カスカイスは、首都リスボンから西へ 25km ほどのところに位置しています。昔は漁師町でしたが今は国際的リゾート地区となっていて、長く続く海岸線がとても美しい場所です。カスカイスと熱海市との関係は皆様ご存知の通り「姉妹都市」となっていて、1990 年にカスカイスから譲られたジャカラダがお宮緑地に植えられ、2014 年に熱海の観光新名所「ジャカラダ遊歩道」が完成したと聞いています。また 2014 年に、熱海からカスカイス市にお神輿（伊豆山勢興会が提供）が寄贈されました。同年 6 月の「日本祭り」で伊豆山勢興会とポルトガル人有志の皆さんと一緒に御神輿を担いで会場を練り歩き、祭りの雰囲気盛り上げました。現在は、サンタ・カザ・デ・ミゼリコルディア・デ・カスカイスに大事に保管されています。

2018 年のある日、熱海市教育委員会生涯学習課から日本ポルトガル協会を通して一通のメールをいただきました。それには、小学校の国際交流授業の一つとして、熱海市立第一小学校 6 年空組の児童 3 名から熱海市と姉妹都市であるカスカイス市の小学生へ手紙を送りたい。現地で交流してくれる学校を見つけて、相互の連絡を取り交流のお手伝いをしてくれないか、というものでした。私は自分の子供ができてからずっと考えていることがありました。それは、これからの世界を担っていく大事な宝物である若い世代に、両国をよく知ってもらう機会を作り、日本ファン、ポルトガルファンを増やしたい、そしてもっと両国の交流を深めたいということです。そんな折にこのお話を聞きましたので、「こんな機会を待っていました！」という気持ちになりました。6 年生の 3 人は、国際理解学習を通じて、熱海と外国のつながりを調べ、カスカイスと姉妹都市であることを知り、自分たちの言葉で姉妹都市の小学生に熱海のことを知らせたい、と思ったのだそうです。私がお手伝いすることが決まった時、子供たちの担任の先生から「交流が可能となる一筋の光が見えた時、子供たちと一緒に本当に喜びました。すでに多くの方の優しさと、手を差し伸べてくださる方のありがたさを、実感をもって学んでいます。」とご連絡いただきました。これほどの想いを実現しないわけにはいかない！と、こちらの中学の地理の先生にご相談しました。この先生は、学校の柔道クラブの顧問で大の親日家です。私は何度か先生の指導する柔道の時間に招待され、子供たちに日本について紹介をしていました。先生がポルトガルの 7 年生（12, 13 歳）の生徒を選ん



サンタ・カザ・デ・ミゼリコルディア・デ・カスカイスに保管されている伊豆山勢興会が寄贈したお神輿



ポルトガルからのアズレージョタイル

でくださり、両国の交流として、手紙やそれぞれの国を紹介するものを詰めた小包を「紹介セット」として贈りあうことになりました。熱海の小学校からは、折り鶴、日本らしいシール、熱海紹介の資料、来宮神社のパンフレット、それらを説明するレターを作成。カスカイスの中学校からは、日本と熱海について調べ学習、カスカイスの魅力を伝える資料、絵葉書、海岸で拾った貝殻、子供たちが描いた風景画、さらに、ポルトガル文化紹介として、この交流のために作家に描いてもらったアズレージョタイルも用意されました。それぞれの国で子供たちが小包を受け取った時の感激は、いかばかりだったことでしょうか。この交流のあと、熱海の子供たちから私あてに、「初めて日本にいない外国の方と交流しました。おかげさまで、僕たちの手紙がポルトガルに届き、ポルトガルからもお返事が届きました。本当にありがとうございました。これからもポルトガルで頑張ってください！」とお礼状が届きました。感性豊かな若い時代に経験したこの感動は、キラリと輝く学校生活の思い出となったことでしょうか。種まきは完了！子供たちが今後どんな花を咲かせてくれるだろうかと、大変楽しみです。小さな一歩ですが、これからもこんな種まきをしていきたいと思っています。



熱海市の小学生から送られた折り鶴・熱海紹介のパンフレットなど

あたまをたのしむ

Tracy Chun

Japan is always my dream travel destination. This time, I got a chance to stay in Atami for 9 months because of COVID-19. I personally consider it as a luck. Atami's allure to me is that a treasured seaside town with beautiful beaches and mountain views. I was so impressed by the fireworks that took place by the sea. Atami itself is just like a cultural center. It is home for many famous writers, artists and film producers. The art works, poems, movies and stories they left here makes the time frozen here. Also, those Japanese traditional architectures, gardens, museums and hot spring spas drew me into the charms of this city. A hidden gem I have to mention about Atami is the IKI-IKI PLAZA. It provides many classes and activities that indeed nourish my life in Japan. I have made many good friends here that makes me fall in love with Atami with no control.



にほんごきょうしつ
日本語教室の
せんせいから おんせん
先生方と。「温泉
たまご
玉子は、とても
おいしかったで
す！」



ぶらざ
いきいきプラザ
か が や みどりせんせい どうこうけい
加賀谷 緑先生の 籐工芸
きょうしつ どう
の教室で、籐のかごと
こもの
小物をつくりました

Keith Allsopp



I moved to Atami, with my wife, Junko, around 2 years ago. By profession I am a business consultant and art dealer. I have a passion for photography and also I enjoy art and nature, and playing golf but I am not-very good! We had planned to split our time between London, where I still have some business activities and Atami, where I want to start a new business. Until COVID got in the way.

Like many foreigners here, I am concerned for my friends and family in the UK and around the world. Japan thankfully is managing very well.

But I feel privileged to be living a quite normal life in my new home Atami. I have already met lots of new friends in Atami and, despite the inconvenience the virus has imposed upon us all, feel relaxed, free and at home here. Atami's people have been very welcoming, offering good friendship and help in many ways. From people at Atami council to local business people and lots of really nice people I have met around Atami (I confess to enjoying visiting to local pubs sometimes!).

In Atami I can indulge my passion for photography, and often spend time, day or night, around Atami with my camera kit; if you spot me please say hello!

Living in Atami means we can all breathe clean sea air, walk along the beach, go to the nearby mountains and spend time exploring Atami city (I keep finding new things and places to experience) and other parts of Izu. We may have missed Matsuri and the Atami Beer Festival this year, but even this year's long rainy season, and exceptionally hot summer hasn't dampened or exhausted my enjoyment of living Atami.

COVID will soon become part of our recent history. We may wonder if it was all a strange dream. Someone, somewhere will make a film about it! In Atami, locals and foreigners, like me, will soon return to our normal lives. Look forward, go forward! Gamabarimashoo!

(日本語訳 キースさんが翻訳をしました)

私は2年ほど前に妻の純子と一緒にイギリスから熱海に引っ越して来ました。職業はビジネスコンサルタントおよびアートディーラー、画商です。私は写真が大好きで、アートや自然、そして下手ですがゴルフを楽しんでいます。まだ事業活動をしているロンドンと、新たに起業したいと思っている熱海の生活の時間を分ける予定でした。COVIDが邪魔をするまでは。

ここにいる多くの外国人のように、私は英国や世界中の私の友人や家族のことを心配しています。日本ではありがたいことに非常にうまく感染予防の管理していると思います。

熱海ではかなり普通の生活ができて恵まれていると思います。私はすでに熱海でたくさんの新しい友達に出会いました。皆コロナ渦で不便を感じるとは思いますが、人はとても親切で、多くの

点で助けてくれました。熱海市議会議員から地元のビジネスマンまで、熱海で出会ったたくさんの素敵な人たち（地元のパブ巡りを楽しんでいることを告白します！）。

熱海では、写真への情熱を味わうことができ、カメラキットを使って昼夜問わず時間を過ごすことがよくあります。私を見かけたら気軽に声を掛けて下さい！「こんにちは！」と。

熱海に住むということは、きれいな海の空気を呼吸し、海辺を散歩し、近くの山に行き、熱海市（私は新しいものや体験する場所を探し続けています）や伊豆の他の場所を探索して時間を費やすことができるということです。今年は祭りと熱海ビールまつりの機会を逃したかもしれませんが、今年の梅雨は長く、異常に暑い夏でも、熱海での暮らしの楽しさが減ることはありませんでした。

COVID は間もなく私たちの最も新しい歴史の一部になるはずです。あれはすべて不思議な夢だったのだろうか。誰かが、どこかでそれについて映画を作らうでしょう！熱海では、地元の人にも私のような外国人にもすぐに普通の生活に戻ります。それを楽しみにして、前へ進みましょう！頑張りましょう！



「やさしい日本語で伝えよう」

言葉の壁のない静岡県を目指して！

～「やさしい日本語」を知る講座を開きます～

外国語ができないと外国人とコミュニケーションができない？そんなことはありません。
「やさしい日本語」を使えば、外国人市民と交流できるし、必要な情報を伝えることができます。
「やさしい日本語」とはどんな時に、どのように使うのか、一緒に学んでみませんか？

日時：2020年12月3日（木） 午後1時30分～（約2時間）

場所：熱海市役所 第1庁舎4階 会議室（予定）

講師：深田みのり氏 定員：10名 参加費無料

対象：市民、近隣市町にお住まいの「やさしい日本語」に興味をお持ちの方

☆詳細は、事務局までお気軽にお尋ねください。

熱海市の人口、外国人の数 (2020年8月現在)

月	外国人数(人)	熱海市の人口(人)
8月	653	36,149

発行元：熱海国際交流協会事務
熱海市中心街1-1第3庁舎1階
生涯学習課内
TEL 0557-86-6233